

今日の14時から「今年の漢字」が発表されます。日本漢字能力検定協会が、その年をイメージする漢字一字を日本全国より行い、その中で最も応募数の多かったものを、その年の世相を表す漢字とします。京都の清水寺で発表することになっていて、選ばれた漢字を「今年の漢字」と呼びます。今まで、「金」という漢字が3回選ばれ、「災」という漢字が2回選ばれています。今年はコロナウイルスに関する「疫」や「禍」、「密」が選ばれるかもしれませんし、鬼滅の刃から「鬼」や「滅」という漢字が選ばれるかもしれませんね。皆さんは何という漢字になると予想しますか？低学年には難しいですが、ぜひ予想してみてくださいね。

ところで、昨年もお話しましたが、みなさんが6年間に何個の漢字を習うか覚えていますか？

1026個なんです。1年生は80、2年生は160、3年生は200、4年生が一番多くて202、5年生は193、6年生は191です。とても多いですね。

その学年で覚えてしまわないと、6年生になってから、1000個以上を一度に覚えるのは、とても大変です。習った時にしっかりと覚えていくことが大切なので、コツコツと取り組みましょう。また、漢

字には書き順があります。書き順は何のためにあるのでしょうか？

漢字やかなを書く順番は、筆順とか書き順といわれています。しかし、これは、その漢字ができたころから、決まっていたものではありません。漢字が書かれるようになって、長い年月の間に、書くことを習慣としてきた学者や専門家たちが、その経験と知恵から生み出したものなのです。ひとつの文字を、速く、正しく、整った文字に書く場合、どのような順序で書けば良いのかが研究され、書き順のもとができました。書き順にそった書き方をしないと、あやまりだとか、いけない文字だとかということはありません。書いた結果の文字が正しければ、書く順序など、どうでも良いのではないか、という人もいます。しかし、長年の間で研究された書き順が、書写のうえでは大切で、この順序が自然であり、速く整った文字を書くうえで必要なことはいうまでもありません。正しい筆順で書かれた文字は、形がくずれたものであっても、どんな文字かが判断しやすいのです。ですから、ただ漢字が書ければ良いではなくて、正しい書き順で書けるようになんばっていきましょうね。